

文献

久木元 由紀子, 緒方 昭子, 外村 昌子, 棕本 義子, 原 直美. 腹腔鏡下術後がん患者に対するソフトマッサージの効果について RCT パイロット研究と半構造化インタビュー. *日本看護科学学会学術集会講演集*. 2017; 37: PF-73-3. 医中誌 web ID 2018188941

1. 目的

腹腔鏡下術後がん患者に対するソフトマッサージの効果を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験、半構造化インタビュー

3. セッティング

急性期病院消化器外科病棟

4. 参加者

胃、大腸、直腸がんの腹腔鏡下手術が予定されている患者

5. 介入

Arm 1 (ソフトマッサージ群 9 人) : 術後 2 日目または 3 日目に 20 分間のソフトマッサージを実施

Arm 2 (比較群 9 人) : 20 分間の床上安静

6. 主なアウトカム評価項目

血圧、脈拍、体温、VAS を用いた痛み・不安の程度、KOKORO スケール (患者の気分を測定)

介入前後に測定、マッサージ介入後に半構造化のインタビュー

7. 主な結果

Arm 1 と Arm 2 の介入前後で評価項目における有意差はみられなかった。群間比較では、KOKORO スケールの不安・安心において介入群に有意差がみられ、マッサージにより患者の不安感が緩和した。インタビューの分析結果では、患者が感じるマッサージの効果は、「痛み」「温もり」などの身体的影響、「気持ち良い」「気分」「リラクゼーション」「安心」などの心理的影響、「手の力」「思い出」などのスピリチュアルな影響を抽出した。

8. 結論

ソフトマッサージの介入は、腹腔鏡下術後がん患者の不安感の緩和に繋がる可能性がある。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

本研究は、腹腔鏡下術後のがん患者へのソフトマッサージの効果を検討するためのパイロットスタディである。また、本研究では単回の介入のみで、複数回継続した介入での効果の検討はしていない。また、抄録集であるためか、ソフトマッサージの方法や、有意水準の記載がなく、詳細は不明である。パイロットスタディで得られた成果や課題を踏まえ、介入方法や評価項目について吟味いただき、主研究に取り組んでいただきたい。

11. Abstractor and date

近藤宏 2021.11.25